

# To Forward

## ～前に向かって～

2023年11月5日

加中人権スローガン

「気づき・考え・行動する」

めざす学校像

「希望と笑顔あふれる楽しい学校」

11月に入り、急激に朝夕の気温が下がる日が増えました。今年の9月は記録的な猛暑で、秋の気配が感じられず心配になりましたが、季節は確実に進んでいると感じられる今日です。

さて、みなさんはスポーツ観戦が好きですか。私は、年齢とともに体力が低下し、なかなか自分が取り組むことはできなくなってきましたが、様々なスポーツを観ることは大好きで楽しみにしています。今年ラグビーワールドカップがフランスで開催され、日本チームは惜しくもベスト8入りは叶いませんでした。また、バレーボールも来年のパリオリンピックに向けての大会が開催され、日本チームは見事五輪切符を手にしたのは、みなさんの記憶に新しいところだと思います。ちなみに今回のラグビーワールドカップは、大会初となる南アフリカ共和国の2連覇で幕を閉じました。南アフリカという国は「アパルトヘイト」という大変な人種差別を乗り越えようとしている国です。

数年前に日本で開催されたラグビーワールドカップの時に、日本チームの中には様々な背景をもった選手が多く含まれており、ネット上や世間話の中で「日本語を話せないのに日本チームの選手と言われても…」とか「この選手、どこの国の人？」という意見を見たり聞いたりすることがありました。他の外国チームを見ると、そのチーム内には様々な肌の色の人がいるのもかかわらず、なぜ日本チームに限ってそれが問題になるのだろうと疑問をもちました。これを語ると"long long story"になるのでここでは書きませんが、日本にも日本以外にルーツをもつ人々も多く暮らしています。人種差別問題は世界的にも大きな問題ですが、「私たちは同じ地球という星に住む人間」という基本的な考えにみなさんが賛同して、自分たちの言動が差別を助長しないようにしてほしいと願っています。

今月の人権通信は、このことを基に選んだ作文を掲載しています。しっかり読んでしっかり考えてください。

法務局第28回全国中学生人権作文コンテスト法務省人権擁護局長賞

「笑顔になるために」

中学校1年 馬瓜<sup>まうり</sup> エブリン

(東京2020オリンピック 女子バスケットボール日本代表)

私は今まで、日本で生まれて日本で生きてきました。しかし、私はみんなとちがうところがいくつもあります。はっきり言ってしまえば、私は『黒人』なのです。黒い肌はかなり高い身長にチリチリのかみの毛。ハーフではありません。両親ともに、アフリカの『ガーナ』という土地から来たので私もガーナ人となるわけです。

でも私は小さいころ、ずっと日本人だと思っていました。なぜなら、私は日本人と同じように話し、聞いて、読むことも書くこともできたからです。しかし、私が近所の子と遊ぼうとする大きな体に黒い肌を見ていつも泣き出してしまうのです。そして私は母に「どうして私は日本語をしゃべれるのに、肌やかみの毛や体はちがうの？」と質問しました。すると「あなたは、日本人じゃなくてガーナ人だから、それが

『普通』なの」と母は答えました。私はその時『普通？どこが？異常じゃん！』そう思ったとたん、私は周りにいる子どもが怖くてまったくいいほど他の子と遊ばなくなり、1人で大好きなバスケットをしているだけ。心配して良くしてくれた大人たちでさえ親しい人以外にはしゃべらなくなってしまいました。

母は、そんな私を心配して『聖書』という本を開いて言ってくれました。「あなたはガーナ人、みんなは日本人。これは絶対にちがうこと。でも世界にはみんなと同じ人なんていない。

日本人もみんな一緒じゃない。マルコの第5章の36節『恐れなくて、ただ信じていなさい』。ちゃんと信じていれば神は友達になりたいという気持ちを成し遂げてくださる。人とちがう所を『悲しむ』のではなく『喜び』を持って、最大限に活かさない」と。この言葉は今でも覚えているほど影響を受けました。当初幼かった私でしたが、母の話す言葉一つ一つが、まるで魔法にかけられたかのように分かりました。そして私は、明るさを取り戻し、友達も増えていき、今まで以上にみんなと仲良くしました。

しかし、私がいやなことはまだありました。それは、自分の外見への悪口です。言われるたびに私は怒って、ケンカしてしまいます。だから私は、四年生の時、母に相談しました。そして返ってきた答えは「言う方が悪い。けど、それを許す心を持つことも必要だと聖書にも書いてある。」そう言われて、びっくりしました。言われているのに我慢しろって言う母に。次の日、また悪口を言われました。必死になってこみあげてくる怒りをおさえました。そして、その日。私は新しい技を取得しました。それは、悪口を言われても、認めて、おもしろいことに変えてしまおう、という技です。だから今となっては悪口なんてへっちゃらです。

今までの、苦しみやいろんな助けによって、私は今の生活が楽しいです。今となっては、私のことを知る人がたくさんいてくれてとてもうれしいです。

しかし、世の中は喜ばしいことばかりではありません。世界では、「戦争」「人種差別」、そして日本では、無差別に人を殺傷するような痛々しい事件が増えたり、もっと身近に考えると、いじめや偏見、自分はないとは言い切れない思いやりのない行動や言葉。これらのことが私を含めてみんながやらないようにすれば、世界は少しでも良くていいのではないのでしょうか。

確かに、許せないような事件も世の中にはあります。しかし、小さいことなら、受け入れることや、広い心で見ること、許すことを考えてもいいのではないのでしょうか。

私の体験は、自分だけのものではありません。社会にも共通することばかりです。世界には自分とまったく同じ人間はいません。みんな人権という、生きる権利を持っています。人権を乱す行動は社会に影響し、後で自分に返ってきます。自分とちがうから偏見やいじめという行動にでるのではなく、見方を百八十度変えて良い方向に見ることが思いやりなどの行動を生むのだと思います。

そして、悩み続けるばかりではなく自分で何か探さして、それを無限大に広げていくことも大切だと思います。

そして私は、思いやりの第一歩は、笑顔だと思っています。だから、この作文を読んでもくれた人に言いたいことがあります。

笑顔をやさしく生きてください。

これが、私が世の中に一番望むことです。

\* 原文まま